



# 港工同窓会 ニュース

臨時号

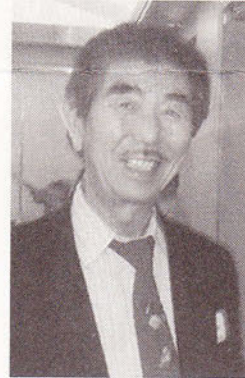
平成15年10月20日発行

発行責任者 前田武男

## ご挨拶

港工同窓会会長

前田 武男



平成元年に、本会を再興してから十五年が経過しました。この間會員の皆様には、毎年六月の定期総会及び懇親会等の会運営に多大なご協力を頂き、役員一同を代表して感謝申し上げます。

母校は、麻布工業高校、渋谷工業高校、高輪工業高校の三校統合により港区愛宕の地で都立港工業高等学校として卒業生を輩出したときに、前身校の先輩の伝統を引き継ぐ形で同窓会が発会し、「港工同窓会」の呼称で、以来會員の懇親と母校の教育活動に協力する事を骨子に活動してきました。その後諸事情から定期総会を開催することも不可能な時期がしばらくありましたが、冒頭のように再興の運びになり、私が会長を拝命いたしました。

の充実をはかり、定期総会の開催と、新會員に対する名簿の発行ならびに現役の支援活動として文化祭行事案内を若手會員に送付して参りました。また、先の母校創立五十周年記念行事には会として立派に協力することもでき、直近では広報活動としての港工同窓会ニュース発行もあります。さて、母校が平成十六年三月に閉校となりますが、先の統廃合とは事情も異なり、新設校に伝統を如何に伝え、そして会の運営も新たな方向に改革を要する時が参りました。具体的な内容につきましては、理事会で十分検討し決める予定であります。つきましては、會員の皆様の大なるご支援ご協力を切に懇願する次第です。

六月七日母校での最後の定期総会が午後一時より開かれました。開催会場には定刻前から三々五々出席者が集まり、総数一〇八名でとても盛大な総会でした。同窓会会長と、現港工高校長で同窓会名誉会長小山実先生のご挨拶に続いて新設の六郷工科高等学校開設準備室の町田先生から新しい教育実習制度の説明とお願ひがありました。引き続き議事に入り、総会次第の平成十五年度事業計画・予算案審議も満場一致で無事に終了しました。



平成15年母校定期総会

大変に意義のある港工同窓会でした。なお、平成十六年度からは同窓会新入會員がいなくなりますが、「港工同窓会」はこれからも存続させ親睦を図らなければなりません。さらには、六郷工科高等学校の発展にも関心を持ち、情報等を伝えたいと思っております。なお、羽田・鮫洲など他校の同窓会とは無関係となりますが、六郷工科高等学校が将来、同窓会を作る場合は、「港工同窓会」の経験を生かして大いに協力して行きたいと思っております。

近況報告

総会案内返信葉書より抜粋

高輪第一本科 1期 電気科

慶野 寛

突然座骨神経痛になり、歩行が困難になりました。誠に残念ですが今は欠席させていただきます。なお同窓会ニュースに富田先生の記事が掲載されておりましたので懐かしく思いました。理科大で一緒に学びました。

麻布第一本科 4期 電気科

吉野 泰隆

私は大正15年10月生まれの76才、麻・工を卒業し、昭和19年1月に通浜航空隊へ海軍整備術予科練習生として入隊。教育終了後8月より実施部隊配属、零戦・紫電戦闘機電気専修として国内各15基地転属勤務。終戦により復員、昭和21年より自動車関係修理の仕事に入り、昭和33年本田技術研究所入社。昭和61年定年退職。63年より平成8年迄、日本シルバーボランティアに登録し、中国の修理工場に15ヶ所技術指導に訪中、現在は地元のアクラブ3ヶ所所で元気に活躍している。

高輪第二本科 9期 電気科

高田 和二

昭和21年3月卒業以来30回のクラス会を持ちました。クラス会名称輪工九回。35名卒業して、消息の分っている者21名。クラス会に出席する者は約12名、13名程。年令は76才、78才。近日同窓会宛に名簿(生存者)とクラス会の歴史を整理して送ります。私の職業、高圧電気業(現役)。

港 全日制 4期 電気通信科

宮沢 留司

港工高には色々な想いがある。始めは高輪工業学校に入学、途中6・3・3制度になり、私どもは併設中学生になる。学校の移転も生徒達が、椅子等を持って歩いて高輪北町から運んだが、学校には中学校が使用していた為、我々は桜川小学校に分校として通学する。教科書不足でガリ版刷りした教科書をもらい綴って授業を受けた。

港 全日制 7期 電気機器科

畠山 正平

只今フィリピンセブ島に住んでいます。時々帰国しますが、短期間です。時々参加できません。悪しからず。又、新校が決定しましたらご連絡下さい。

港 定時制 7期 機械科

玉村 有司

同窓会ニュースで、恩師の富田幸雄先生の文を拝読し、ご健在を嬉しく思いました。私は定時制卒業後、道をかえて小学校教師を志し、学芸大学に進学しました。以後、小学校教師として、担任、教頭、校長を歴任し、平成8年に大田区蒲田小学校長を最後に退職いたしました。現在は体調不良で入院を繰り返している状態です。ご盛会をお祈りいたします。

港 定時制 22期 機械科A組

桑原 敏幸

定時制卒業式・閉課程式典・愛宕を惜しむ会に参加でき、うれしく思っています。その節はお世話になり有難うございました。近い将来校舎がなくなると、懐かしくとも訪れることができなくなりから淋しく思います。その時は新設校へ行ってみようと思っております。同窓会のホームページを作ったらパソコンにホームページを作つてはどうでしょうか。校歌を聞いたり、同窓会、同級会の情報、恩師の消息、写真など見れると良いですね。連絡の取れない卒業生、関係者がアクセスするかも知れません。

港 全日制 5期 電気機器科

畑野 純夫

お世話様になり、有難うございます。いよいよ母校最後の同窓会になり感無量です。今回は私たち5期電気機器科(5E)も、愛宕町、新橋界隈で思い出の最後のクラス会を企画し、恩師を招いて開催する予定です。従いまして総会には出席させていただきます。頂くことになりました。宜しくお願いたします。10月ごろには新校名も決まる予定とのこと、来年を楽しみにしております。役員の皆様のご健康を祈念します。

港 全日制 8期 電気通信科

岡野 征外雄

卒業以来約半世紀となりました。遠い昔の事となりました。母校の名が消えること、大変淋しい思いがします。しかし、私共は、かつての担任片山茂先生を囲んで毎年1回クラス会を催し、旧交を温めています。今回都合により欠席とさせて頂きます。

港 全日制 16期 機械科

渡辺 春雄

ニュースの「人生の途中で」は感激しました。私は港工では全日制でしたが、いすゞに勤めながら、4年後日大の定時制に通い、職学を全うし27才で卒業しました。糠信さんの今後のご活躍を祈ります。

母校便り

教頭 桑原 洋

本校では「生徒一人一資格」取得を学校経営方針の重点目標に設定し、閉校まで生徒の指導に積極的に取り組んでおります。

機械科の生徒は、7月10日の機械製図試験に6名の生徒が合格し、8月30日、31日には、国家技能検定3級（普通旋盤作業）に8名の生徒がチャレンジし、全員合格いたしました。

自動車科では、3級整備士取得に向けて指導を続けております。

電気科では昨年度及び今年度で22名全員（今年度の在籍生徒）が第二種電気工事士に合格いたしました。

また、高橋恭太郎君は、高校生ものづくりコンテスト全国大会（8月11日開催）に出場いたしました。

電子科では、デジタル3種試験合格1名、情報技術検定2級合格5名、3級合格2名、計算技術検定3級合格3名などの成果を上げております。

本校生徒の活躍ぶりにマスコミも注目し、東京MXテレビ、教育新聞および、日本新聞に生徒の活躍が紹介されました。

都立港工業高等学校における

諸証明の発行について

都立港工業高等学校の閉校に伴い、卒業生への諸証明の発行事務は以下のとおりになります。

平成16年3月31日までの申請分  
都立港工業高等学校において受け付けます。

〒105-0000  
港区西新橋3-18-13  
電話 03-3431-1583

平成16年4月1日以降の申請  
都立六郷工科高等学校において受け付けます。

〒144-0046  
大田区東六郷2-18-2  
京浜急行雑色駅下車5分

（連絡）  
平成15年10月現在は仮決定です。ご不明の点につきましては

3月までは港工業高等学校に、4月以降は東京都教育庁高等学校教育課 都庁代表電話

03-5321-1111  
へお問い合わせください。

3月及び4月は閉校・開校準備のため混雑が予想されます。証明書が必要な方は充分時間の余裕を見て早めにお申し出下さい。

都立港工業高等学校事務室より

同窓会事務局からのお知らせ

◎賛助金のお願について、平成15年4月時点の住所判明者5728名のうち、本年の該当者4764名に振込用紙を送り、646名の会員から送金戴きました。

これで今回の発行見通しが立ちましたので、賛助金納入の方のみですがご報告を兼ね臨時ニュースを送ります。なお、昨年の824名から約20%減です。

◎賛助金の納入は毎年かとの質問があります。任意につき毎年でなくとも結構です。但し、現状は減少傾向にあり、より多くの会員の賛同をお願いする次第です。なお、昨年と連続送金の方は445名でした。また①金額の訂正は可能です。（最高は2万円でした）②郵便

振替端末機を使用すれば、早くても手数料（同窓会負担）が10円安くなります。

◎会員から同窓会名簿発行のご要望が多数ありますが、昨今の情報漏洩問題から当面全体名簿の発行予定はありません。ただし、クラス毎等の要望には、個別に送付しますので、窓口まで一報下さい。

◎お別れ会の通知は会場の都合により総会出席者・賛助金納入者・総会案内返信者の方に限定しました。悪しからずご了承下さい。

★…母校最後の文化祭のご案内…★

在校生諸君の活動の成果をご高覧下さい。また、校舎内外の見学と合わせご案内申し上げます。

港工祭 11月9日(日)

午前9時～午後2時

※同窓会ブースを用意します。是非ともお立ち寄り下さい。

☆同窓会会務の連絡先について

校内理事（OBの先生）不在のため、名簿の質問、住所変更等のご連絡は、下記へお願いします。

記

〒278-0036 千葉県野田市中野台鹿島町23-7

(株) クリーンジャパン内

松岡 信之

(会計理事 港16期 S39.A卒)

TEL 04-7125-6808 FAX 04-7125-6851

E-mail : matsuo@cleanjapan.net

# 随想

## 母校と愛宕神社の石段

港14期(定) 安江 弘吉

火星大接近の中秋の名月の爽やかさが、しつかりとまぶたに焼きついた今年のお月見。愛宕山の緑と共に母校生徒の教材のように記念撮影の背景に。又、放課後の心身鍛錬の共有物とし存在感ある愛宕神社の石段。この石段の有名なエピソードは寛永十一年の春。愛宕神社の源平の梅を、三代將軍家光公は菩提寺、芝増上寺の帰路ご覧になり「誰かあの梅を取って参れ!」と命じました。しかし、あまりにも急な愛宕神社の石段にだけ一人歩み出る者はいません。まもなく、この石段を馬で登りだした者が歴史に伝わる四国は丸亀藩の家臣曲垣平九郎(まがき・へいくろう)でした。平九郎は見事神社の梅を手折り、馬で石段を降りて家光公に梅を献上しました。この時から平九郎は家光公より「日本一の馬術の名人」と讃えられ、その名は一日で全国にどろいたと伝えられています。

歴史ある街並みは高層建築で景観は変わりましたが、歴代の学校長を始め、PTA役員、そして同窓会幹事の半世紀以上の有形・無形の教えと伝統は、愛宕神社の石段の名声と共に不滅です。母校は取り壊されて

も、広報活動を通じて名月のように、いつまでも万人の心に残る港工同窓会を微力ながら支え、努力いたす所存でおります。

何卒ご指導ご協力を切にお願い致します。

## 新設校について

すでにお知らせしているように、母校は他校とともに、平成十六年四月に新設の「都立六郷工科高校」に引き継がれます。したがって港工(全・定)は十五年三月に廃校済み、羽田工(定)、羽高(定)、鮫洲工(定)は事実上廃校となります。

新設校は校名も決定し、単位制の新しい試みの学校になります。

同校の規模は、全日制一七五名、デュアルシステム科三十名、定時制六十名。設置学科は

- デザイン工学科/プログラク
- ト工学科/システム工学科/オートモビル工学科
- デュアルシステム科
- 定時制 生産工学科/普通科です。

六郷工科高校のユニークな試みは、本格的な職業教育制度を採用したデュアルシステムの実践です。同校と区内もしくは、近県にある企業が連携、企業での就業訓練を単位として認定する事です。企業と本人が合意すれば、そのまま就職もでき、企業側の人材難と生徒側の就職難を同時に解決しようというものであります。

また、決められた単位を一年ごとではなく、三年間で取得すれば、卒業も可能です。

同校全日制のもう一つの特徴として女子生徒に人気のあるデザイン系の学科も新設し、少子化が進む中で女子生徒の募集にも力を入れ、同校の入学者の三割は女子生徒であるとの目標も掲げています。

△デュアルシステム参加企業の推薦紹介をお願いします。▽

現在開設準備室が中心となりデュアルシステム参加企業を募集しております。同窓会会員の方で東京都内もしくは近県で推薦企業がありましたら、是非ご紹介をお願いします。

### 問合せ先:

開設準備室 主幹 町田 紳  
電話: 03-5737-0161  
FAX: 03-5737-0163



平成十六年三月、五十八年の歴史を閉じる母校、港工同窓会は、通信のやりとりや、総会での顔合わせの繰返しを増々深めて、活動する時期にきたと思う。同窓会と共に、大いに頑張り努力する所存です。

同窓会ニュース第三号は、来年発行を予定しております。二月末迄に随想・在校時の思い出等、原稿を募集致します。尚、応募原稿は順次同窓会ニュースで発表致します。ご連絡は事務局まで宜しくお願い致します。

編集後記

◆港工58年の幕を閉じる◆

☆閉校式典☆  
平成16年3月6日(土)

第56回卒業式 於 本校  
閉校式 於 本校

☆お別れ会☆  
於 芝パークホテル

6期(全) 龍 健治  
22期(全) 町山 茂  
14期(定) 安江 弘吉

編集子一同